



かがやき自立活動通信

平成28年1月18日

草加かがやき特別支援学校 自立活動専任



特集 2016年、子どもとたっぷりかかわってみよう！

『子どもはみんな問題児。(新潮社)』という本を読みました。作者は中川李枝子さんです。『いやいやえん』『ぐりとぐら』などの作者、「となりのトトロ」の楽曲「さんぽ」の作詞をした人です。この本に次のような詩がありました。

焦らないで、だいじょうぶ。
 悩まないで、だいじょうぶ。
 子どもをよく見ていれば、だいじょうぶ。
 子どもは子どもらしいのがいちばんよ。

今回は、子どもとのかかわりについて考え、気持ちをリフレッシュして新しい1年を過ごせるようにしましょう。



子どもの何を見ればいいの？

ことばではうまく伝えられなくても、全身で伝えようとしているものに気付けるようにしましょう。そうすると叩いたり、キーツという声を出したり、相手を傷つけるような一言の奥にある「子どもが本当に伝えたいこと」がわかるようになります。子どもの気持ちがわかると、バラバラだった子どもの行動が「なるほどね…」と納得の行くものになるかもしれません。

子どものかわいいところを探そう！

次の資料はある親の会のアンケートで「どんなときに自分の子どもがかわいいと思いますか？」という質問に対する回答です。

コミュニケーションがとれたとき
 子どもの優しさに触れたとき
 笑顔・寝顔・何気ない表情
 できることが増えたとき
 その他（この子が家族をまとめてくれていると感じたとき、など）



忙しかったり子どもの行動に対してイライラすることがあると、かわいいところが見えなくなってしまうかもしれません。でも改めて子どものかわいいところを探してみるとほっこりとした気持ちになります。「お母さん手作りのカレーは本当においしいそうに食べてくれる！」「妹に対しては、世界で一番素敵なお兄ちゃん」「電車の絵本を見ている時のキラキラの瞳」「電話に出るとお父さんだかどっちだかわからないくらいよく似た声」「最近急に骨ばってきた肩」…。まずは「この子のここが大好き！」を探してみましょう。ちょっと時間がある時に子どもをじっくり観察してみると「何をやってんだか…」と思いつつもつい笑ってしまったり、「え？そんなこと、できるようになっていたの？」を発見できるかもしれません。こういう気づきが毎日の育児のストレスを緩和させるのかもしれません。

子どもをポジティブ（肯定的）に捉えよう。

子どもたちに対してこんなお母さん（お父さん・先生）になりたいな…という理想の人はいますか？「この人、どうしてこんなにおおらかに接することができるの？」というモデルのような人を見つけたら、ひとつでもいいですからその人のマネをしてみましょう。行動・話し言葉、何でもいいです。

例：ムーミンのお母さん

ムーミンやミイたちが大騒ぎをし、家の中はメチャメチャ…。でも「あーら、楽しそうね」と子どもの気持ちに立てる。

「いいお母さんになろう」「いい先生になろう」と考えるよりも、「子どものことを丸ごと受け入れられる人になろう」と考えて行動する方がいいのかもしれませんが。（難しい…。）

子どもに選択をさせているけれど…？

今までの通信で「子どもに選択をさせましょう」「自分で決めることは大切です」と扱ってきました。しかし選ばせている一方で、パターンリズムという考え方が働いているかもしれません。パターンリズムとは、日本では「父権主義」などとも言いますが、「本人の意思に関わりなく、本人の利益のために、本人に代わって意思決定をすること。父と子の間のような保護・支配の関係」（はてなキーワードより）を言います。選ばせているようで、実はその前に選択肢にフィルターがかかってしまっているような状態です。

危険なこと・他者に迷惑をかけることでなければ、たまには、子どもたちの自己決定に任せてみましょう。横で見ている「あーあ…」と思うことがあるでしょうし、「そうすると、あなたは絶対に怒るでしょ？」という結果になってしまうこともあるかもしれません。

人が成長する時には、「周りから何と言われようとこれをやりたい！」と思うことがあるはずです。どんなに障害が重くても、自分らしく生きて行きたいと考えているのではないのでしょうか？「ボクはこれでいいんだよ」「私はこれがやりたいのよ」それを子どもたちにも体験させ、見守ってみましょう。発見があるかもしれません。子どもは親とは別人格です。教員とはわずか数年間の付き合いです。子どもたちはゆっくりだけれども確実に育っていきます。子どもたちの時間軸の中で時にはかかわってみましょう。



自立ノート

『子どもはみんな問題児。』の中には読み聞かせについても書いてありました。どんな本を選んでよいかわからないときには次のことを参考にしてみてください。

本の奥付を見て「〇刷」の刷数が多いものを選ぶ。

たくさん子どもから支持されているという、ひとつの指標になります。『いやいやえん』『ぐりとぐら』はもちろん、『三びきのやぎのらがらどん』『おさるのジョージ』『ちいさいおうち』など「古典」と言われるものが上がってきます。

すぐれた童話や絵本は大人が手にしても楽しいです。涙をこぼしてしまうこともあります。『100万回生きたねこ』『ずーっとずっとだいすきだよ』などを高校生のお子さんと読み、感じたことを話してもらうのも素敵ですね。私たち同様、子どもたちにも、改めて読んだときの発見があるかもしれません。